

## 巻 頭 言

### 大学における研究・教育支援組織としての技術センターの現状と展望



技術センター長 山本陽介

大学改革の大きな波の中、技術センターが大学における研究・教育支援組織として非常に重要な組織であるとの認識に基づき、「技術センターの人員管理の長期計画」について、平成26年度から大学上層部と協議を重ね、27年度末までに各部局やセンターに説明して参りました。説明の骨子は、約15年後までの定年退職者等を考慮した定員ポイントのシミュレーションを行った結果および以下の方針に基づいた技術職員の新規採用計画です。つまり、新規採用の基本方針は、技術センターの主要業務は全学支援という原則をさらに厳格に徹底（全学>部局>専攻>研究室）することと、技術職員全員の業務内容を詳細に検討したことなどを、業務内容を指示する組織である部局等に対して説明しました。今後も、指示組織と具体的な協議を継続して行うために、技術センターの方針をできるだけ詳細に説明することを目標としました。関係する部局等には、概ねご理解いただいたと認識しています。

定員削減を受け入れるという苦渋の選択になりましたが、大学の現状から考えると不可避だったのではないのでしょうか。一方、長期の人員計画の重要性について、技術センターと大学・部局・センターとの意見交換を緊密に行えるきっかけになったとも思っています。

また、平成23年度に統合されたものづくりプラザは、非常に順調に稼動しております。しかし、工作機器の多くは古く、機能が満身に発揮できない、修理部品が入手できない、高度・多様化する研究者の要望に十分に応えられないなどの問題が顕在化し、更新や新規導入が大きな課題となっていました。そこで、平成27年4月に吉田理事・副学長が越智学長と協議していただき、機器の更新計画を作成しました。8月に開催された3者協議の結果、設備更新の原資として、計10,000千円/2年（平成27-28年度、5,000千円/年）を大学から支給していただくことになり、とても有り難いことでした。2年後に成果を検証すること、受益者負担分として依頼工作費（技術料）を200円→350円/hと改定することも併せて決まりました。これを受け、28年4月から改定させていただいておりますので、ご理解をお願いいたします。なお、27年度には、3Dプリンタと超音波コアリング装置（マシニングセンターのアタッチメント）を導入しましたので、是非ともご活用ください。

最後になりましたが、教員との連携・技術職員間の連携の強化を目指して開始した技術センター研修会も平成27年度で12回目となりました。平成27年9月15日に学士会館で開催し、基調講演は瀬戸内圏フィールド科学教育研究センター長 前田照夫教授の「広島大学大学院生物圏科学研究科附属瀬戸内圏フィールド科学教育研究センターの現状と今後について」でした。これまでの経緯や現状などを整理してお話しいただきましたので、とてもよく理解できました。前田先生におかれましては、大変お忙しいところご講演いただき、誠にありがとうございました。

今後、技術センターを取り巻く環境はさらに厳しくなると予想されますが、このように連携を密にして、教職員や学生からさらに信頼される技術センターとなっていくことが非常に重要だと思っております。そのためには、やはり日々の更なる精進が肝心です。何卒よろしくお願い申し上げます。

平成 28 年 8 月記